# 中日色彩語における比喩的表現の対照研究

## —— 基本色彩語を中心に ——

李　静暁

**要　旨**

現実の世界は様々な色に溢れ、人類言語の中に色彩を表わす語もたくさん存在する。色彩語は、直喩・隠喩・換喩・転喩などの手法を通じて、いろいろな意味をも伝えている。両言語の中の色彩語は、それぞれの比喩的表現の意味と用法はどうなっているか、両者はどの点で一致しているか、またどこで違っているか、このような異同に潜んでいる原因は何か、などの問題もあり、また、近年来、中国語にも日本語にもたくさんの新語が生まれ、色彩語も時代の変化に沿って、新しい比喩的意味や用法を持ってきた。両言語はこの点においてどのような異同があるか、その異同の原因はどこにあるか、などの問題もある。本稿はそれを研究ものである。

**【キーワード】**

色彩語　　中日対照　　比喩的表現　　コーパス

### 1. 先行研究

中国語の色彩語についても、日本語の色彩語についても既に研究が深く行われた。作品の中の色彩語についての研究や、作家が使う色彩語の特徴などについての研究、または色彩語の語構成、比喩や象徴などの意味と用法を論じるものもたくさんあり、かつ非常に大きな成果を挙げた。中日色彩語の対照に関する研究も数少なくない。(詳細は参考文献をご参照願いたい)

#### 1.1 大河内康憲 (1997)

大河内康憲氏は著書『中国語の諸相』の中の「中国の色彩語」一章において、言語における基本色彩語とその数や、中国語の色彩語の語構成及び各彩色語が指す色相、それが意味するもの、日本語の色彩語のそれとの偏りなど、種々な側面から論じた。

氏は、中国での生活の経験にも基づいて、現代語の共時的用法を通して、中国語学の立場から、中国語の色彩語の性格を説明し、日本語との差を考え、中日色彩語の対照にもずいぶん触れた。

#### 1.2 尤東旭 (2004)

尤東旭氏は『中日形容詞における比喩的表現の対照研究』という本の中で、中日基本色彩形容詞における比喩的表現の対照研究を行った。

氏はまず、中日それぞれ五冊の辞書[i]で調査を行い、中国語と日本語の色彩を表す形容詞の語彙数を調べ、その差異を考察した[ii]。それから、基本色彩形容詞[iii]に関するすべての比喩的表現を網羅し、中国語とも日本語とも比喩表現を持っている五つの基本色彩形容詞（红（赤い），白（白い），黑（黒い），青（青い），黄（黄色い））の比喩表現を例で説明し、その範囲と用例数を表でまとめた。両言語におけるこれらの色彩形容詞の使用実態、特徴と異同を明らかにした。また、日本語に比喻的用法がない、中国語に比喻的表現を持っている他の基本色彩形容詞（绿，篮，灰，粉，紫）の比喻表現の用例数と範囲をも考察し、中日両言語における色彩形容詞の共感覚の異同についても、辞書上の例文をあげて論説した。

### 2. 研究課題

両言語の中の色彩語は、それぞれの比喩的表現の意味と用法はどうなっているか、両者はどの点で一致しているか、またどこで違っているか、このような異同に潜んでいる原因は何か、などの問題もあり、また、近年来、中国語にも日本語にもたくさんの新語が生まれ、色彩語も時代の変化に沿って、新しい比喩的意味や用法を持ってきた。両言語はこの点においてどのような異同があるか、その異同の原因はどこにあるか、などの問題もある。先行研究がまだ解決していない上述の問題を、本稿の研究の課題とする。

### 3. 研究対象

中日社会の日常生活の中によく使われる基本色彩語を研究対象（色彩語の品詞を問わず）とする。そして、中日対照研究をするために、中国語では、“赤”を、日本語では、外来語で表す基本色彩語も考察範囲に入れる[iv]。

① 中国語の“黑，白，红，蓝，绿，黄，

② 上述の中国基本色彩語に対応している日本語の基本色彩語。つ

### 4. データ収集方法

中国語の《人民日報》のデーターベース、日本語の「「毎日新聞」のデーターベース、それぞれ10年分のものを利用して、研究を進めるつもりである。

新聞のデータを使う理由としては、新聞に用いられる表現は既に多くの人々に受けいれて、比較的正しい表現であり、それから、新聞の内容も時代の動きと深く結びついて、新語をもより的確に伝えているからである。

### 5. 分析方法

認知言語学の立場から､プロトタイプ理論を用いて、中日色彩語の比喩表現の使用実態と意味を考察し、色彩語の直喩・換喩・隠喩・などの比喩的表現の認知のプロセスを究明する。考察の結果に基づいて、中日両言語における共同点と相違点を分析し、その背後に潜んでいる原因を探ってみる。

### 6. 研究目的

中日両言語の色彩語は比喩的表現における意味と用法の特徴・異同・原因を明かにする。

### 7.今後の課題

これまで、私はただ中日色彩語の異同の現象だけを考察し､認知意味論の立場から深い分析をしなかった。これからは、研究目的を達成するためには、認知言語学に関する本を更に多く且深く読み、その真髄を把握し、中日色彩語の比喩表現について深く掘り下げて調査研究するつもりである。

### 注

i その調査対象となる辞書について、中国語は王国璋ほか編著《現代漢語重畳形容詞用法例釈》、大東文化大学中国語大辞典編纂室編『中国語大辞典』、北京・商務印書館、小学館共同編集『中日辞典』、愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典』、相原茂・韓秀英編『現代中国語 ABB』型形容詞逆配列用例辞典』を使い、日本語は飛田良文・浅田秀子著『現代形容詞用法辞典』、林史典・鸛岡昭夫・教育社国語編集部著『15 万例文・成句　現代国語用例辞典』、北京対外経済貿易大学・北京商務印書館・小学館共同編集『日中辞典』、新村出編『広辞苑』第四版、金田一春彦編『学研現代新国語辞典』を使った。なお、調査対象の辞書に実例がないとき、ほかの文献による用例の場合もある。

ii 中国語の色彩形容詞の総数は306語あって、非常に発達している。それに比べて、日本語の色彩語形容詞は24語だけで中国語に比べて語彙数が少ないと述べた。

iii 尤氏によると、現代中国語には色彩形容詞が次の十語ある：红（赤い），白（白い），黑（黒い），青（青い），黄（黄色い）、绿（緑、あおい），篮（紺、あおい），灰（灰色），粉（桃色），紫（紫）。括弧の中にある、対照する日本語で分かるように、日本語には中国語の“灰”、“粉”、“紫”の形容詞に対応するものがないのである。また、「あおい」は色彩の表現範囲が広く、中国語の“青”、“蓝”，“绿”の三つをカバーしている。そのため、中国語の十語に対して、日本語にはその半分の五語（赤い、白い、黒い、青い、黄色い）しかない。

iv その理由としては、中国語の“赤”、は、“面红耳赤，赤诚赤脚，赤手空拳，赤裸裸”など、色彩などの意味でよく使われ、日本語の「赤」の意味と同じところや異なるところが存在する。なお、日本語の色彩語の新語の多くは外来語で表している、新語を対象として中日両言語の比較をする場合は、外来語で表す色彩語も考察範囲に入れる必要がある。

### 参考文献


1．王国安・王小曼著（2003）《汉语词语的文化透视》汉语大词典出版社
2．大岡信編（1983）『日本の色』朝日選書
3．野村順一著（1994）『色の秘密』ネスコ・文芸春秋
4．大野晋他（1990）『日本語相談』朝日新聞社
5．大河内康憲（1997）『中国語の諸相』　白帝社
6．金田一春彦（1998）『日本語』上･下　岩波書店
7．尤東旭　著（2004）『中日形容詞における比喩的表現の対照研究』白帝社
8．中村明（1996）『たとえ言葉辞典』東京堂出版
9．中村明　編　『比喩表現辞典』角川書店　1995
10. 中村明　編　『感覚表現辞典』東京堂出版　1996
11. 上地安貞・谷澤泰史　編著　『英語の感覚感情表現辞典』東京堂出版　2004


り　せいぎょう／北京日本学研究センター　修士課程2年
lijingxiao213@yahoo.co.jp